

作業行動学特論

[講義] 第1・2学年 前期 選択 2単位

【担当者名】 鎌田樹寛 t.kamada@hoku-iryo-u.ac.jp 本家寿洋

【概要】

リハビリテーションにおいて人の作業とは、家事や仕事の仕事の活動、身辺処理活動、レクリエーションやレジャーなどの遊比的活動からなる。この「遊びと仕事のまったくの発達の連続性」を作業行動と定義している。本講義では、前半においてこれらの概念の源流から歴史の変遷の中での進化や深化を概説し、その理解を深める。後半は、これらの作業ができない状態（作業機能障害と呼ばれる）についての改善方法・取り組むべきこと・そのための評価法とアプローチの方法等の解説を行い、次いで臨床や地域での適用についての討論を通して、作業行動学的観点に基づく実践についての素養を学ぶ。

【学修目標】

一般目標：前半は、作業行動学的概念の基盤に関する進化や深化に関する歴史の変遷を概説して、理解を深める。後半は作業ができない状態（作業機能障害と呼ばれる）についての改善方法・取り組むべきこと・そのための評価法とアプローチの方法等を講義し、討論を通して理解を深める。

行動目標：

1. リハビリテーション（作業療法）の源流について説明ができる
2. 作業パラダイムについて説明ができる
3. 作業行動理論について説明ができる
4. 人間作業モデルについて説明ができる
5. 作業科学について説明ができる
6. 生物学的・心理学的・社会的な知識を使用して人の作業機能を説明できる
7. 人間作業モデル10の概念の評価方法を説明できる。
8. 人間作業モデルの各領域（小児期・成人期・老年期）の実践例を説明できる

【学修内容】

回	テーマ	授業内容および学修課題	担当者
1~7	作業行動学の歴史的背景と理論の進化や深化とは	リハビリテーションの源流からの科学や学際的変遷（作業パラダイム・作業行動理論・人間作業モデル・作業科学）の進化や深化について学ぶ。	鎌田樹寛
8~15	人間作業モデルの評価とアプローチ方法	心身機能の障害やそれが予測される対象者が陥る作業機能障害の改善や、潜在能力の引き出し方について、人間作業モデルによる評価測定とアプローチ方法の適用や応用方法を用いた臨床（小児期・成人期・老年期）や地域支援に関する実践例を基に、具体的討論を通して理解を深める。	本家寿洋

【授業実施形態】

遠隔授業

授業実施形態は、各学部（研究科）、学環、学校の授業実施方針による

【評価方法】

レポート50%、討論での取り組み50%

【教科書】

使用しない(適宜資料を配布する)。

【参考書】

早稲田大学複雑系高等学術研究所編 「複雑系叢書～身体性・コミュニケーション・こころ～」共立出版 2007年

【学修の準備】

関連の文献等関係資料について、理解が深められるように整理・統合すること（予習・復習各80分）

【ディプロマ・ポリシー（学位授与方針）との関連】

リハビリテーション領域における臨床的課題に対し、医科学・心理学・社会福祉学などの学際的視点を取り入れながら科学的に分析・解決する能力を身につけているというリハビリテーション科学専攻博士前期（修士）課程のディプロマ・ポリシーに適合している。

(2026年度・大学院 リハビリテーション科学研究科)

【実務経験】

鎌田樹寛、本家寿洋（作業療法士）

【実務経験を活かした教育内容】

実務経験を通じた作業行動学的観点からの課題や問題解決につながる研究指導を行う。